

シネマ203

8月の上映

赤枠は日時オーダー上映!

見逃したくない作品を、ご希望の日時に上映します【申込 090-8172-7074】

最新schedule →



7/31(木)更新 8月は、光をあつめて。北ぶらくり丁で、好奇心前回の涼しい夏をお過ごしください。

Aug	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
1 金				13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 17:15 (1H38) 冬冬の夏休み		17:30 - 18:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		21:20 - 22:40 (1H12) ファンタスティック・プラネット	
2 土		11:15 - 12:35 (1H12) ファンタスティック・プラネット		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 17:15 (1H38) 冬冬の夏休み		17:30 - 18:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		21:20 - 22:50 (1H12) ガンダーラ	
3 日		10:30 - 12:35 (1H58) 私たちが光と想うすべて		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 17:15 (1H38) 冬冬の夏休み		17:30 - 18:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて			
4 月	休館日												
5 火		11:00 - 12:45 (1H36) 冬冬の夏休み		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 16:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		17:00 - 18:30 (1H30) ガンダーラ		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて			
6 水		11:00 - 12:45 (1H36) 冬冬の夏休み		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 16:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		17:00 - 18:25 (1H18) 時の支配者		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて			
7 木		11:00 - 12:45 (1H36) 冬冬の夏休み		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 16:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		17:00 - 18:30 (1H30) ガンダーラ		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		21:20 - 22:40 (1H12) ファンタスティック・プラネット	
8 金		11:00 - 12:45 (1H36) 冬冬の夏休み		13:00 - 15:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		15:30 - 16:50 (1H12) ファンタスティック・プラネット		17:00 - 18:25 (1H18) 時の支配者		19:00 - 21:05 (1H58) 私たちが光と想うすべて		21:20 - 22:40 (1H12) ファンタスティック・プラネット	

- 北ぶらくり丁の秘密基地で、極上の映画体験をお届けしています。
- 15席の小さな映画館です。当日ふらりと立ち寄りください。
- 事前予約も受付中。HPの予約フォーム、SNSのDM、メール、お電話にてどうぞ。
- 2週目以降は、お客さまのご希望日時に上映する「日時オーダー」も受付中です。

最新スケジュールは、SNSでも随時更新しています →



アクセス [北ぶらくり丁会館2F] 本町公園より徒歩1分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
[北ぶらくり丁会館]の鉄看板アリ。奥の赤い階段を2階へ。

【駅から徒歩/バス】
和歌山市駅より徒歩10分/バス1~2分(800m)
和歌山駅より徒歩25分/バス5~9分(2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203 8月の上映



René Laloux
La collection fantastique



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



海へ ― 寄せては返す波に耳をすませば、未来の光が闇を照らして。

満員電車、ごったがえす病院の待合室、夜風を求めて開け放った窓から吹き込む夜半の大雨。大都会ムンバイで働く3世代の女性たちにまわりつく、汗と運命。ああこの監督は、ムンバイという街のリズムを知っている—39歳のバヤル・カパーリヤー監督の厳しい目、揺るぎない視線に驚いていたら、彼女はドキュメンタリー出身の新進作家だったのです。

インド映画だと思って見始めて、すぐに気がきます。黙ってじっと世界を見ている女性たちが、ほかに居たな。ベルギーにも、ブータンにも、アルゼンチンにも。7月のラウラ・シタレラ監督に続きまたひとり、新時代を切り拓く女性監督の「自由」を上映します。夏の海辺を知っている、いつでも海辺がそこにある私たちも一緒に、光と想うすべてに触れられたら。



『私たちが光と想うすべて』All We Imagine as Light

監督・脚本 バヤル・カパーリヤー

出演：カニ・クスルティ、ディヴィヤ・ブラバ、チャヤ・カダムほか

(2024年/フランス、インド、オランダ、ルクセンブルク/マラーヤラム語、ヒンディー語/118分) 配給：セテラ・インターナショナル

川へ ― [再発見：アジアへ行こう]は夏休みから、侯孝賢から出発します。

あの頃、世界が息をのんだ台湾ニューシネマの巨匠、侯孝賢（ホウ・シャオシェン）。偉大な映画作家の作品を、必ず上映したいと思っていました。代表作『悲情城市』から上映すべきではないかと勝手に逡巡しているうちに、予期せずこの夏休みの全国公開の流れに乗って、『冬冬（トントン）』が先にやってきました。若い世代の映画人が、「大好きなこの1本をぜひとも上映したい！」という情熱で連れてきてくれたのです。

35年前の夏には、どういう風に見られていたんだろう。映画鑑賞の教科書、淀川長治先生の評を探してみました。「まるで私たちの子供のころとそっくりですね。夏休みの遊び。（中略）この映画はまるで刺繍のように人物が流れていって、夏休みの生きた絵物語ですね。郷愁を感じさせてくれる映画の詩。この監督は私たちに目で見える美しさを教えてくれました。見事な作品です」淀川先生の言葉は、いつも真髓を思い出させてくれる。映画とは、詩でしたね。

これからも映画を楽しむために必ず通っておきたい道、侯孝賢。[再発見：アジアへ行こう]シリーズの第一弾として、今年も本町文化堂のご指南を頼りにアジア映画特集を開幕します



『冬冬の夏休み』A Summer at Grandpa's 冬の假期

■'85 ナント三大陸映画祭最優秀作品賞 ■'85 アジア太平洋映画祭最優秀監督賞

監督：侯孝賢（ホウ・シャオシェン）

原作：朱天文（チュウ・ティエンウェン） | 脚本：朱天文、侯孝賢

撮影：陳坤厚（チェン・クンホウ） | 選曲：楊徳昌（エドワード・ヤン）

製作：張華坤（チャン・ホアクン） | 字幕翻訳：小坂史子

(1984年/台湾/アメリカンビスタ/98分) 配給：Stranger

“キモカワ”かと思っていたら、堂々の正統派SF！3篇の宇宙からのメッセージ!!

先月のイントロダクションに続き、ルネ・ラルー執念の長篇3本を、8月はいよいよ本格的に上映します。予想に反して、40〜60代のご来場が多いです。つまりそれは、「カルト映画」と呼ばれた先鋭的な作品群のアンダーグラウンドな上映会に熱心に通っていた層、あるいは時代の空気、その文化の匂いを知ってはいながら、参加する機会のなかった層に巡ってきたファンタスティックなチャンス、ということなのでしょう。いま触れてみて、その正統性に驚く



3本です。当時あれほど映画館に通いながら、見逃していたことが信じられない「映画」たち。『時の支配者』のプロットの王道、『ガンダーラ』を壮大に包むガブリエル・ヤレドの映画音楽も併せてご堪能ください。

ルネ・ラルー ファンタスティック・コレクション 配給：ザジフィルムズ

『ファンタスティック・プラネット』La Planète sauvage

監督・脚本：ルネ・ラルー 原画・脚色：ローラン・トボール

音楽：アラン・ゴラダール 原作：ステファン・ウル「Oms en Série」
(1973年/フランス=チェコスロヴァキア/フランス語/72分)

『時の支配者』(1982年/フランス=ハンガリー/フランス語/78分)

『ガンダーラ』(1982年/フランス=北朝鮮/フランス語/83分)

夏の名残りを引きずりながら、小粋なフランス映画で「秋、到来」！

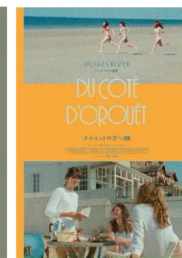
7週間のアルゼンチンの旅にご同行いただき、ありがとうございました。心の底から楽しかった！『トレンケ・ラウケン』+過去作3本で未来を見せてくれたラウラ・シタレラ監督とその仲間たち「エル・バンベロ・シネ」に感謝です。「2階にいたアレは何？ エリサが妊娠しているのは誰の子？そして2人はどこへ？ 謎が山積みなのに、理由がわからなくてもいいなと思えた初めての映画でした」素敵な感想に感激……インドから届いた「女の時代！」第2弾、『私たちが光と想うすべて』でもまた「未来」と出会ってください。

『冬冬の夏休み』(84)の封切は1990年8月25日。日比谷シャンテシネ2という東宝初のミニシアターで侯監督の代表作『悲情城市』(89)に続いての連続公開でした。当時、20代で西洋かぶれのミーハー映画ファ

ンだった私にとって、彼の映画は、アジア映画もノスタルジーだけではないんだ、くらしい印象しかなかった。でも40代で『悲情城市』を再見た時、圧倒されて椅子から立ち上がれませんでした。歳を重ねなければ見えてこないものがある。今回あらためて侯孝賢という監督の分厚い魅力を再発見したいと思います。

「203って海辺の映画ばかり。なんで？」。それはたぶん、ジャック・ロジエを待っていたからですね(笑)。お待たせしました、ついに上映します。まずは『オルエットの方へ』が9月1日出発（予告篇参照）です！そうです、『女っ気なし』です。そう、『やさしい人』のお父さんです。2年前は上映できなかったけど、今ならできる！「みんなのジャック・ロジエ」お楽しみに。

(北ぶらのブルー・ジーンズより)



シュヴァンクマイエル
ジャック・ロジエ
ミシェル・ルグラン
and more

重要：本町文化堂 [音楽と無声映画] 次回は8/31(日)『荒武者キートン』です！夏の終わりに最高の映画体験を!!